

主体的な共有緑地保全活動への参加過程の検証 —都市集合住宅におけるグリーンワークショップ実践事例からの報告—

○甲野 毅（特定非営利法人集住グリーンネットワーク）

研究の背景と目的

都市および近郊の里地・里山では保全活動を担う人材の高齢化により、活動の継続が問題となっている。人手不足が深刻な場所では、市民は活動の担い手として多いに期待されるであろう。また活動がコミュニティの形成、維持に影響をおよぼすことが報告されているように、都市における緑地保全活動には労働力の提供・自然環境の改善などの直接的意義と、コミュニティの発展などの間接的意義が存在する。さらに活動に参加することにより、参加者の森林への関心が向上する可能性が指摘されている。このように都市における緑地保全活動は活動する意義があり、活動を促進させることが重要であろう。だが活動の促進要因は示されているが、活動へ参加するようになる過程は示されていなかった。

そこで甲野（2012）は聞き取り調査により、その過程を、主に意識面より明らかにした。だがそこでの活動形態は、参加者が指導者と共同して活動を運営するという積極的に参加している状態であり、自分達が参加者を募り、指導をするなどの主体的な活動形態への参加過程を示すことができないという課題があった。主体的に緑地保全活動をするようになる参加過程を明らかにする必要があると考える。

研究方法と対象

本研究の調査対象は、甲野（2012）と同様に居住者の母数が決まっており観察しやすいことより、新規に建設された都市集合住宅の居住者とした。また研究方法も同様に筆者が対象地で緑を通した環境教育＝グリーンワークショップを行い、活動に対する居住者の反応に関して参与調査を行う方法と、活動参加者への聞き取り調査である。

グリーンワークショップとは緑と交流に関するプログラムを通し、参加者が緑地保全活動に参加することができるように、働きかけることである。緑に関するプログラムは、共有緑地の自然環境、管理作業、そこからの産出物を題材とし、交流に関するプログラムでは、居住者のコミュニティ形成を意図している。

研究の概要

筆者が企画運営したグリーンワークショップを、3年間行った結果、単に活動に参加する受動的活動段階から、居住者が筆者と共同運営する共同的活動段階へ至った。本調査では1年間の共同的活動段階から、主体的に活動していく主体的活動段階への過程を中心に検証していく。

引用文献

甲野 毅・土屋 俊幸 都市集合住宅における共有緑地保全活動への参加過程の検証 林業経済研究 Vol. 58 No. 2 (2012) 33-41 頁

(連絡先：甲野 毅 tkouno@r3.dion.ne.jp)